

令和7年度 つつじが丘小学校 学校評価報告書

【A:達成 B:ほぼ達成 C:あまり達成してない D:達成していない】

領域	評価項目	自己評価 (達成状況)	学校の現状や改善に向けた方策	関係者 評価	具体的提言
学校経営・教育課程	教育目標	A	・よかった。来年度も引き継いでほしい。→来年度の学校目標は、文言が変わる(年度末に作成・運営協議会で承認)。	B	・良い点や、この学校ならではの良さは残し、その年にあった子どもたちへの分かりやすい目標がいい。 ・よい目標は、続けてほしい。 ・子どもは学校が楽しいと感じており、保護者も満足度が高く実態に応じた教育目標となっている。 ・次年度「学び・自信・笑顔の花(輪)を咲かせる学校」としてはどうか？(輪は友だち作り)。 ・100%肯定していて、教育目標が全職員で認識共有できている。
	教育課程・教育計画	A	・今年度は教育課程担当中心に、きちんと集計を行っていたいいため、余剰があるかどうかを集計し、今後の授業時数の変更に役立てる。 ・朝学習から朝の会 についてはどのクラスも行えている。しかし、終わりの会については行えていないクラスもある。年度はじめに確認したので、きちんと行う。 ・教育課程の集計をもとに余剰が十分にあるならば、学期はじめ・終わりとともに、ゆるやかなスタートをきる(始業式後の2日間は、給食終了後下校など)。また、成績処理期間も様子を見て考える。	B	・学期はじめ、終わり、成績処理期間に関して、余剰があるなら、児童、教師のためのゆとりを作ることは賛成である。 ・次年度余剰がある分や、子どもたちとの関わりにうまく使える時間を考えていく必要がある。 ・各学年2クラスしかないので、クラスによってやれている、やれていないといったことのないように様子を見てほしい。 ・長期休業明けの児童の心身の状態を踏まえると、学期の始めに「ゆるやかなスタート」を意識することは非常に重要であると考える。 ・終わりの会の必要性の共通理解があればよいのではと思う。 ・年度はじめの計画は全学年でしなくてはいけない。 ・校区探検は非常によい企画なので、続けてほしい。 ・地域の方と昔の学習や校区探検など協力して取り組んでいると思う。保護者も地域の一員として、もっと積極的に関わっていただければいいと思う。 ・地域との関わりを活かした教育を次年度以降も継続してもらいたい。
	家庭・地域との連携	A	・保護者にお手伝いに来てもらう日の調整が、今年はできなかったため、オープン掃除で来てくれる人が減っている。→来年度は、大掃除のみオープン掃除にしてはどうか。 ・学校HPについて、昨年度なかなかできなかったため、今年度は1か月に1回、週ごとに学団を決めてHPを作成することになっていたが、アップできてる学年と滞っている学年がある。→スクールサポーターに依頼をする。＊ただし、来年度も本校勤務かわからない。順番ではなく、あげたい内容があったらその都度あげる。または、いつも教室をまわってくださる先生(校長先生など…)教室での様子をあげていただく。各学年に情報担当がいるので、HPを作成するようにする。 ・地域連携でお手伝いをしていただくことが、今年度は少なかったように思う(各学年からの依頼方法が周知できていなかった)。→職員室前のホワイトボードに予定表を貼っておく。また、カリキュラムに、保護者へ手伝いを要請した単元についてはメモ書きをしておき、次年度へ引き継ぐ。	B	・保護者、地域をもっと巻きこんだ学校運営を求める。 ・子どもの数が減っているので、保護者の方や地域の方の協力はより必要になってくる。どのように連携をとっていくのか、協力体制など考え、実践していく時なのではないか。 ・保護者の参加が少ないオープン掃除のあり方を検討する必要があるのでは。土、日に行ってはどうか。 ・地域スポーツ団体が学校施設を使用する際の用具の保管については、今後、中学校においても明確なルールを定める必要があると強く感じた。また、円滑な運用のためには、使用団体が一堂に会し、共通理解を図るための話し合いの機会を設けることも必要であると考える。 ・地域連携が日常的になされており、積極的に教育活動に協力する姿勢がある。 ・地域連携のお手伝いはまち協ニュースに記載できないか？ ・(長期休み中の掃除等について)長期休みの時の土日を活用してはどうか(先生方のふたんは大きくなるが…←これはダメだと思うが)。 ・地域住民が集まりやすい曜日に掃除などしては？ ・PTA活動がなくなり、保護者が関わる機会が減っているため、いろいろな機会に保護者ボランティアをお願いするといいと思う。参加しやすいのは、参観日だと思うので、参観日のオープン掃除など。 ・すべて肯定であり、今後も連携を更に進める取組を望む。
	あい・ワクワクプラン	A	・よかった。	A	・「あい・ワクワクプラン」により教職員の学校運営が良い方向に向かっているような評価なのは、何よりである。 ・児童にマイナスな影響がでない方法で、今後も合理的なアイデアが出てほしい。 ・時間などは、子どもたちにも定着してきたのではないかと思う。ただ、そのことで、給食の時間が短いなどの声も聞く。教科担任制では、子どもたちの様子など必要な共有はしっかりすべきである。 ・5分短縮も定着されているように思える。以前から行っているゆるやかなスタートは、小学生にはとてもよく思える。 ・職員が働きやすい職場となっている。 ・41の記述も3学期のみとしたことは意味不明？ ・36、37の回答から、学期始め、終わりがゆるやかでないように感じた。特に学期始めの給食スタートが早く、子どもたちもしんどいのではと感じることがある。給食や他校との兼ね合いもあって難しいかもしれないが、先生や子どもたちがゆとりをもって、安心して新学期をスタートできるようになればいいと思う。 ・学期始め、終わりのゆるやかな授業は必要と思う。
	学習指導	A	・宿題、家庭学習に関する項目に、そもそもの質問項目のニュアンス差もある。児アは「宿題」、保アは「家庭学習」という記載している。つまり保護者は「宿題も含めた中での家庭学習」として捉えているため、数値がやや下がったか(＝乖離が生まれたか)。児アは「提出物としての宿題」、保アは「課題+αで取り組もうとする主体性」に関わる設問と考える。→例えば質問内容を「宿題」と「宿題を除く家庭学習」の2つに分けてそれぞれ問えば、両者の温度感をより正確に比較できる。 ・ICTに関して、タブレットは週末の持ち帰りは絶対に実施する。 ・(授業中の)教師の活用スキルの差はあってよいが、子どもの活用頻度に差があってはならない。教師の苦手意識が原因で、子どもの操作スキルに影響が出てしまうのは、避けたい。→教育課程フォルダ内の「カリキュラムモデル」も参考にしながら、学習内容と相性の良いタイミングで使う。「使うこと」が目的になってはいけないが、「使わない」よりはましである。 ・読書に関しては、学テの分析でも読書活動を充実させることが必要となった。図書館司書に手伝っていただいて読書環境を整えること、図書に時間は○付けの時間でなく読書指導の時間、教師も読書を試みるなど、図書の時間を充実させたい。	A	・タブレットの活用に関しては、教師により差があるように思えるが、児童の操作スキルに差が出ないようにしてほしい。 ・読書について、少しでも習慣になるような環境を整えてほしい。 ・タブレットやICTが変わっていく中、子どもたちのタブレットの活用法や教員からの対応、その中でも、読書など活字の重要性など、対応していく必要がある。 ・タブレットの活用を全学年見直しが必要な点は感じた。ただ、文字を書くことも大切なので、両方をうまくできればいいように思える。 ・教師の苦手意識が要因となり、子どもたちの操作スキルに影響が生じている点については、中学校においても同様の課題が見られる。教師間で活用スキルに差が生じること自体はやむを得ない面もあるが、全体としてのスキルの底上げを図ることが重要であると考える。 ・子どものアンケート、保護者アンケートから、家庭学習に対する課題が低学年からあることに分析が必要だと感じた。 ・課題と方策で質問のとらえ方、質問の仕方があがっていた。この方策でより実態が把握できるとよい。 ・ICTに関して学校間で考え方、必要性のすり合わせ協議がよりなされるとよい。 ・タブレット利用で子どもたちの学習の自由度が上がれば良い。 ・子どもが在学中に参観した時、タブレットやデジタル機器がうまく活用している印象を受けた。中学、高校でもタブレットが日常的に使われているので、小学生のうちから慣れておくのは大切だと思う。 ・タブレットの活用は、児童間で差が生じないように行わなければいけない。

学 習 指 導 ・ 課 題 教 育	特別活動	A	・児童朝会が長い。→内容を精選し、集合時間を守らせ、前に立つ高学年の指導を徹底する。 ・各クラスの話し合い活動がんばりたい（令和10年度に大会がやってくる）。→来年度の特別活動の提案にも盛り込んだり、話し合い活動の動画を子どもたちに見せるなどして、活性化していく。	B	・主体的に活動できるような児童を育てていくことが大切である。 ・高学年へのリーダーシップの意識がある子と、プレッシャーに感じる子がいる中、うまく自主性や自己肯定感を上げていく必要がある。 ・今年体育委員が計画したマラソンなどのように、子どもたちで計画酒主になる活動はとてもいいと思う。 ・放送委員の活動について話を聞き、中学校でも活用できる取組が多く、大変参考になった。児童、生徒の良い行動や発言、活動を積極的に認めていく「ポジティブ行動支援」をさらに推進することで、子どもたちの主体的、自立的な活動が一層増えていくことを期待する。 ・学校全体で大変なよい取組ができつつあるため、引き続き取り組まれていくことに期待する。 ・集合時間が守れない児童は、社会人になってもなおらないと思うため、徹底して教える。 ・児童運営委員会の活動に期待している。駅伝、鬼ごっこ、放送などすばらしい。 ・高学年が主体となることを継続できる環境づくりが必要と感じる。
	課題教育 （人権・特別支援・安全防災・キャリア・福祉）	A	・特別支援学級担任と支援員の時間割の打ち合わせが有意義だった。→来年度以降も継続し、風通しをよくする。また、教室に支援者の座席は、継続でしておく。 ・コア会議（支援が必要な児童についての会議）は、今年度メンバーを固定したことは効率面でもよかった。また、情報を得るために、特別支援コーディネーターが担任と話をする機会が多くなったことはよかった。必要に応じて、担任の参加についても柔軟性を持つ。今年度はすべての学年から参加ができていなかったので、来年度はコア会議に学年が参加し、情報が集まる体制作りをしていく。3次支援シートの活用もよかった。 ・登校指導の方法→（登校班在り方次第で）登校指導のアナウンスする（回数は現状維持？）。 ・キャリア教育については、普段の学級活動（当番活動など）とつなげて実践していく。 ・福祉教育については、4年生に負担が偏っている。→主は4年生だが、手話は2年生におろすなど各学年に内容をばらけさせる。また、講師等との連絡について、窓口は担当者がするが、いろんな学年が福祉教育を行うので、年度はじめの計画を見て各学年が打ち合わせをする。	B	・支援学級だけでなく、通級指導の必要が増える中、学校に来にくい生徒への対応も必要とされ、学校の中での教員の対応や過ごし方を考えていく必要がある。 ・キャリアパスポートの内容がもっと子どもにもわかるように伝えた方がいいように思える。 ・福祉教育は、もう少し他学年に増やしてもいいと思う。 ・中学校においても同様だが、キャリア教育については「どのような取組がキャリア教育に位置付くのか」という共通理解を図るための研修が必要であると感じた。教職員間で共有することが、取組の充実につながると考える。 ・特別支援教育において、会議の持ち方や参加者の連携など、こども理解につながる工夫が多くなされている。この学校の姿勢が、子ども同士の関わり方に大きく影響すると考えられる。 ・児童にとってよりよい方向に進んでいる様で安心だ。 ・福祉教育が4年生に偏っているという意見があり、子どもたちに意識付けていくには、やはり6年間で継続して割り組んでいく方がいいと思った。 ・キャリア教育は、例年肯定率が他と比べて低いが、原因究明が必要ではないかと感じる。
生 活 指 導	生活指導	A	・指導の温度差がある。きちんと指導した方が不利な立場におかれることもあった。→教職員が指導スタイル、学級スタイルを作る前に、共通の基準を周知する　ために、年度始めのできるだけ早い日程で生指の提案をする。今年度は、年度はじめの「生活指導の手引き」提案と中間の振り返りを実施したが、来年度は、それに加えて、第1回目の各種委員会で、生活指導の手引きに基づいたチェックを実施し、結果を交流・確認する。 ・朝の会、帰りの会については、流れ【案】を基本の型として生活指導担当から提案する（学級ごとのアレンジは可能）。それに向けて、まずは今年度末に各クラスで実施されていた内容（進行表など）を集め、参考にする。 ・担任・担当外の子どもたちに対して、素通りせずに声をかけようという雰囲気がある。→全職員でかかわっていく風土は、予防的生活指導のベースとなる。継続を！ ・問題行動が起きたときや指導が入らないときなど、毅然とした指導がしづらい。→本人の背景や心の内面に寄り添い支援することは大切だが、周囲への影響や集団としての秩序を守り、安心安全な学校でいるためには、もう一歩踏み込んだ指導が必要である。また、早い段階で保護者に現実を正確に伝え、一緒に動いてもらうようにする（保護者の許可を得た上での動画撮影など?）。そのために　は、問題発生時には、できるだけ早期に管理職・生活指導担当に報告・相談をし、組織で動く。 ・子どもへの指導は、一場面の切り取りの指導は難しいので、日頃からの子どもたちとの信頼関係が大切である。 ・集団登校を廃止できないか→集団登校については、まずは、つつ小応援団に委ねる（来年度、つつ小応援団によるアンケート実施）。来年度は、「再来年度は自由登校になるかも…」と考えておくことは大事。また、つつ小応援団に教職員側の意見も伝える。 ・緊急時に安全に下校させるためには、地区担当を定めることと下校ルートの確認は必要なので、年度はじめに一斉下校のみ1回行う。従来の地区児童会という形は行わない。	B	・指導に関して教職員の共有、統一した対応が必要だが、保護者とも共有することが大切だと思う。すべてを学校任せにならないよう、家庭の協力も求めていく。 ・つつ小応援団との積極的な連携も大切と思う。 ・あいさつは少しずつ増えているとは聞いているが、子どもの人数が減る中、あいさつやルールを守ることへの指導は、より必要なのではないかと感じる。 ・担任や学年でバラバラな指導になっているところは気になる。 ・なかなかあいさつができない子どもが多い。学校ではできているといっても、地域でもあいさつすることは大切なことはもっと伝えてほしい。 ・生活指導における教員間の指導の温度差は、中学校においても大きな課題の一つである。そのため、中学校では、指導の在り方を意識的に整理し、「毅然とした態度で厳しく指導すべき内容」と「生徒に考えさせる指導の内容」とを区別している。具体的には、相手を傷つける行為や不快な思いをさせる言動、さらには命に係わる事実については、安全と人権を最優先に考え、毅然とした態度で厳しく指導している。一方で、校則に関わる事項などについては、なぜその決まりがあるのかを生徒自身に考えさせ、主体的な判断力や規範意識を育む指導を行っている。このように指導の基準や方向性を明確にし、教職員間で共有することが、温度差の解消につながると考える。 ・指導案件があったときには、生徒指導と管理職が対応について判断し、学校全体で対応できている体制がすばらしい。 ・指導について職員が課題意識をもっており、改善策を考えていける学校の風土がすばらしい。 ・時間、あいさつ等は、1日の始まりのため、日常的に指導してほしい？ ・「あいさつ運動」のような動機づけも、コミュニケーション力を強くするため、必要か？ ・サポートルームがとてもいい取組だと思う。コメントからも、子どもたち1人ひとりに先生方が寄り添い向き合っている姿を感じた。指導の温度差はその時の状況や子どもによっても変わることもあるので難しいと思うが、職員間で共通の認識をもつことが大切だと思う。そのうえで子に応じて伝え方や指導の仕方は工夫が必要だと思う。 ・3項目とも、昨年度より改善されており、取組の成果が出ている。
組 織 ・ 教 育 環 境	教職員 ・勤務環境	A	・会議の開始時間が厳守できていない。→会議開始の時間は、職員室前の黒板を朝確認してから教室へ行く。 ・学期はじめや終わり、行事直前に会議がある。→他日程で調整できないか検討する。 ・学期はじめ、4時間授業を増やすことも検討したい。	B	・教職員が（特に担任教師等）スムーズなクラス運営、学年運営、学校経営ができるようサポートが必要である。 ・教員の勤務環境を整えること、見通しやその日の校内のことの確認など、分かりやすい環境づくりが必要である。 ・会議の開始時刻をはじめ、子どもたちに時間を守ることの大切さを指導する以上、まずは教員自身が「時間を守る」風土を醸成していく必要があると感じた。時間を守らないことは、他者の時間を奪う行為につながるという認識を、教職員一人ひとりが共有することが重要であると考える。 ・業務が大変多い中、職員が晏族する取組がなされている。 ・IT活用などで効率的に作業ができるように「講習」の計画も必要では？ ・先生方がお仕事や時間に追われることなく、心に余裕をもつことで、子どもたちとじっくり関わり向き合えると思う。先生方の負担が少しでもなくなればいいと思う。 ・会議開始時間が厳守できていないようであり、改善が必要である。
	教育環境整備	A	・体育館への移動で屋根がないため、雨の時の導線に困った。→雨の日は、2、3階間の入り口から全学年入ってもよいのでは。 ・低学年はそうじ時間が足りているのか。→時間に余裕が欲しい。しかし、低学年も何とかできている。 ・物（教具等）の整理ができていない。→倉庫や教具室などの整理整頓には、日頃から気を付けることが大事。担当に声かけか、メモを残す。貸出表があればよいかもしれない。 ・倉庫になが入っているかわかりにくい（特に行事関係）。→管理されている場所がわかるように、鍵に書いたり、鍵かけにある表を分かりやすく整理する。	B	・物の整理は大切である。担当責任者を決め、管理が必要である。 ・子どもたちのそうじの時間や内容など確認し、保護者などにも協力をもとめてもいいのではないかと。 ・誰もがわかりやすい整理は必要だと感じる（表示、廃棄）。学校職員以外が使用するところもあるので、見直されるとよい。 ・機器は古くても、気分が明るくなる環境整備をお願いする。 ・計画的な最低限の整備は必要であり、根拠を示した予算要求をすべきと感じる。